株式会社夢真ホールディングス
YUMESHIN HOLDINGS CO.,LTD.

2011年9月期
第3四半期決算
＜ 補 足 資 料 ＞

2011年9月期/
September.2011
第3四半期/
3rd Quarter
証券コード/
Securities code
2362

CONTENTS

第3四半期業績概要＜単体＞

P3…　前年同期比
P4…　計画進捗率

外部環境

P5…　首都圏マンション着工戸数推移
P6…　建設業就業者年代別割合

ご参考

P7…　稼働率推移
P8…　月次売上高推移
P9…　評価性引当額推移

※この資料は平成23年7月29日に開示しました「平成23年9月期第3四半期決算短信」に掲載されていない、単体での業績を補足するものです。

＜単体業績概要①＞前年同期比

＜千円＞

	2010年9月期 第3四半期実績	2011年9月期 第3四半期実績	増減額	増減率
売上高	3,624,952	4,075,481	+450,529	+12.4%
売上総利益 （売上総利益率）	1,139,880 （31.4%）	1,326,069 （32.5%）	+186,189	+16.3%
販売費及び一般管理費 （販管費率）	648,336 （17.9%）	718,387 （17.6%）	+70,051	+10.8%
営業利益 （営業利益率）	491,543 （13.6%）	607,682 （14.9%）	+116,139	+23.6%
経常利益 （経常利益率）	522,653 （14.4%）	551,500 （13.5%）	+28,847	+5.5%
税引前四半期純利益 （税引前四半期純利益率）	425,755 （11.7%）	462,052 （11.3%）	+36,297	+8.5%
四半期純利益 （四半期純利益率）	329,590 （9.1%）	262,636 （6.4%）	△66,954	△20.3%

当社の2011年9月期第3四半期単体は、主力派遣先である首都圏マンション着工戸数が、住宅ローン減税等に起因する回復を見せ、前年同期比82.2%の増加となりました（P5・首都圏マンション着工戸数推移参照）。そのため、技術者需要が堅調に推移し売上高で前年同期比12.4%の増加となりました。また継続して行っているコスト管理の見直しにより、販管費が0.3pt.改善されたことで、営業利益で23.6%の増加となりました。営業外費用で社債発行費29百万円、繰上返済手数料22百万が、一時的に発生しましたが、経常利益で前年同期比5.5%の増加となりました。税引前四半期純利益で前年同期比8.5%増加しましたが、評価性引当額の減少により（P9・評価性引当額の推移参照）、四半期純利益は、前年同期比△20.3%となりました。

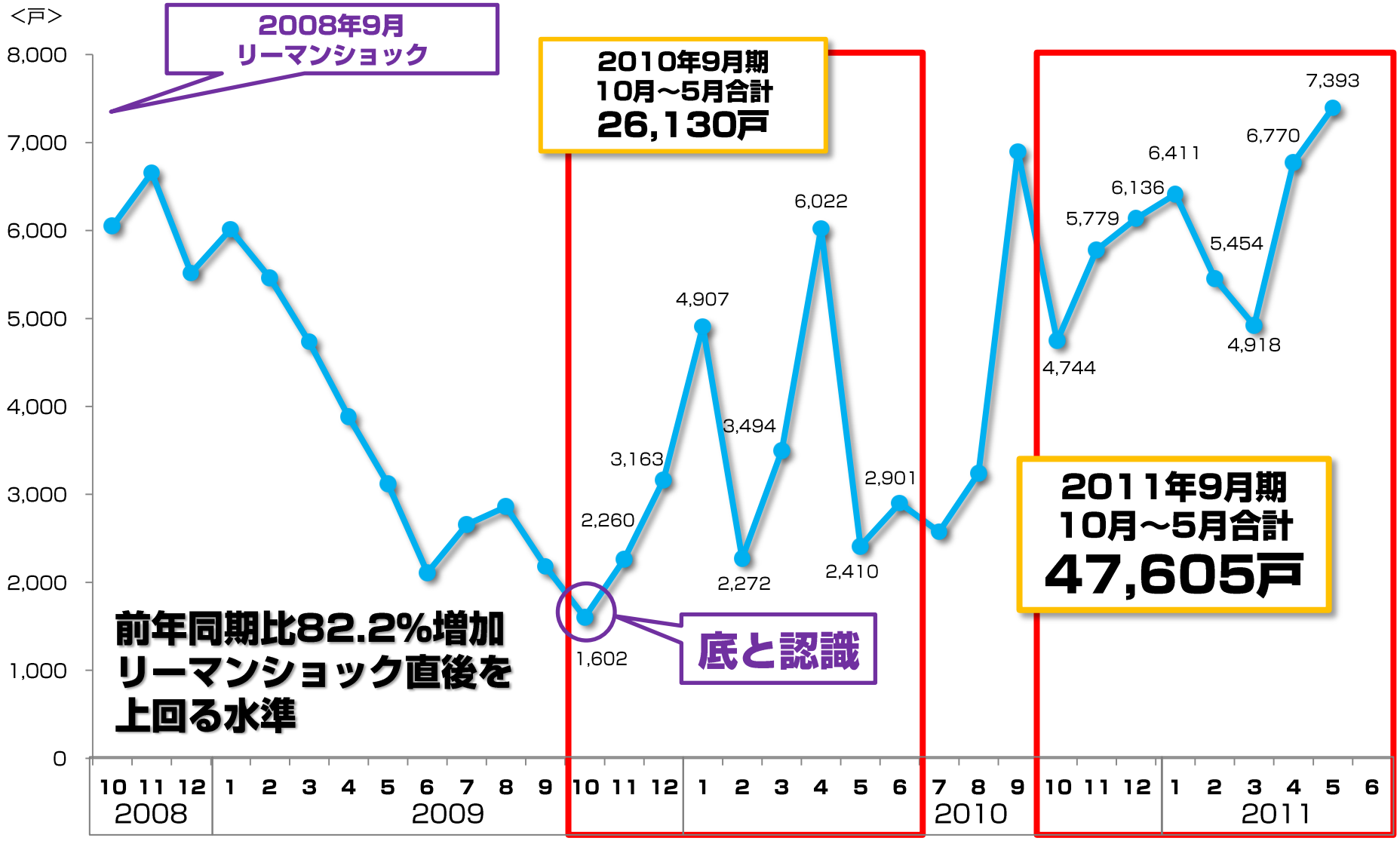
＜単体業績概要②＞計画進捗率

＜千円＞

	2011年9月期 第3四半期実績	2011年9月期 通期計画	進捗率
売上高	4,075,481	5,100,000	79.9%
売上総利益 （売上総利益率）	1,326,069 （32.5%）	1,542,000	86.0%
販売費及び一般管理費 （販管費率）	718,387 （17.6%）	882,000	81.4%
営業利益 （営業利益率）	607,682 （14.9%）	660,000	92.1%
経常利益 （経常利益率）	551,500 （13.5%）	660,000	83.6%
四半期純利益 （四半期純利益率）	262,636 （6.4%）	390,000	67.3%

2011年9月期第3四半期単体の計画進捗率ですが、稼働率が10月～6月すべての月で90%を超える水準で推移したこと（P7・稼働率推移参照）で、売上高で進捗率79.9%となりました。また、売上総利益、営業利益、経常利益で、目安となる75%を上回っております。特に営業利益は稼働率を高く保ち、技術者の待機を抑えたことで、進捗率92.1%と高い水準となりました。四半期純利益につきましては、評価性引当額の減少による影響で、67.3%となりました。

＜外部環境①＞首都圏マンション着工戸数推移

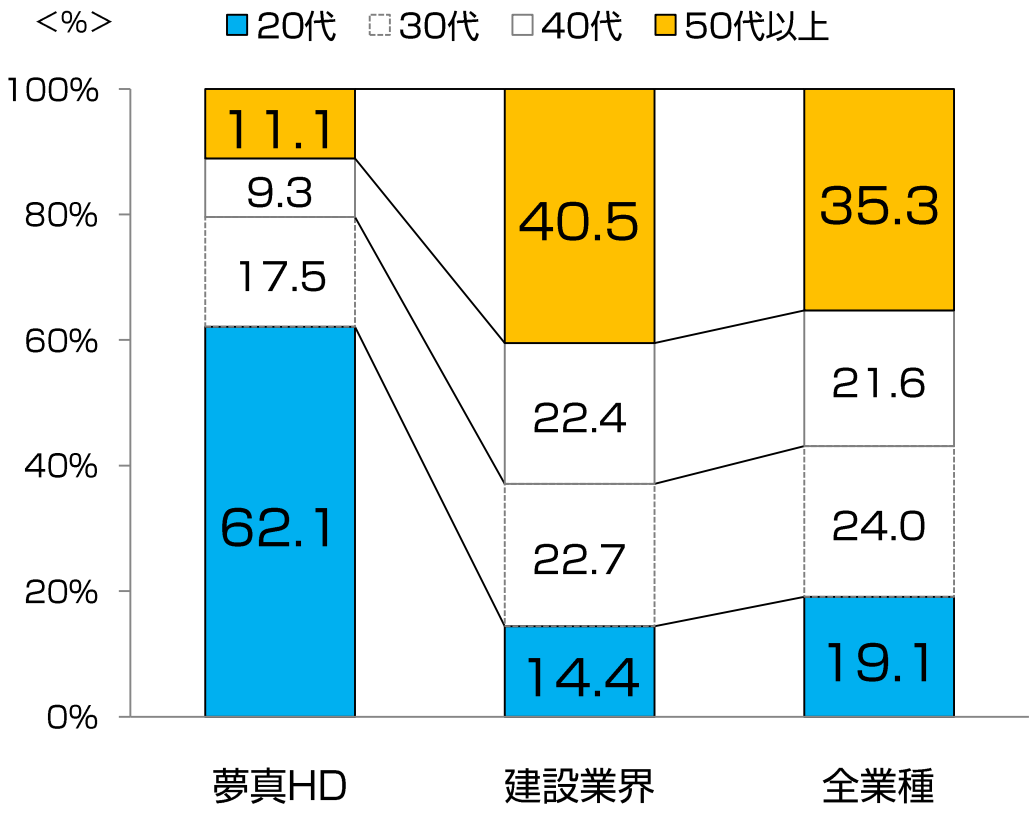


※1．着工戸数は首都圏（東京・埼玉・神奈川・千葉）のものです。
2．2011年6月の着工戸数は当資料発表現在、公表されていないため、
5月までで比較しております。

出典：国土交通省「建築着工統計戸数」

＜外部環境②＞建設業就業者年代別割合

年代別割合

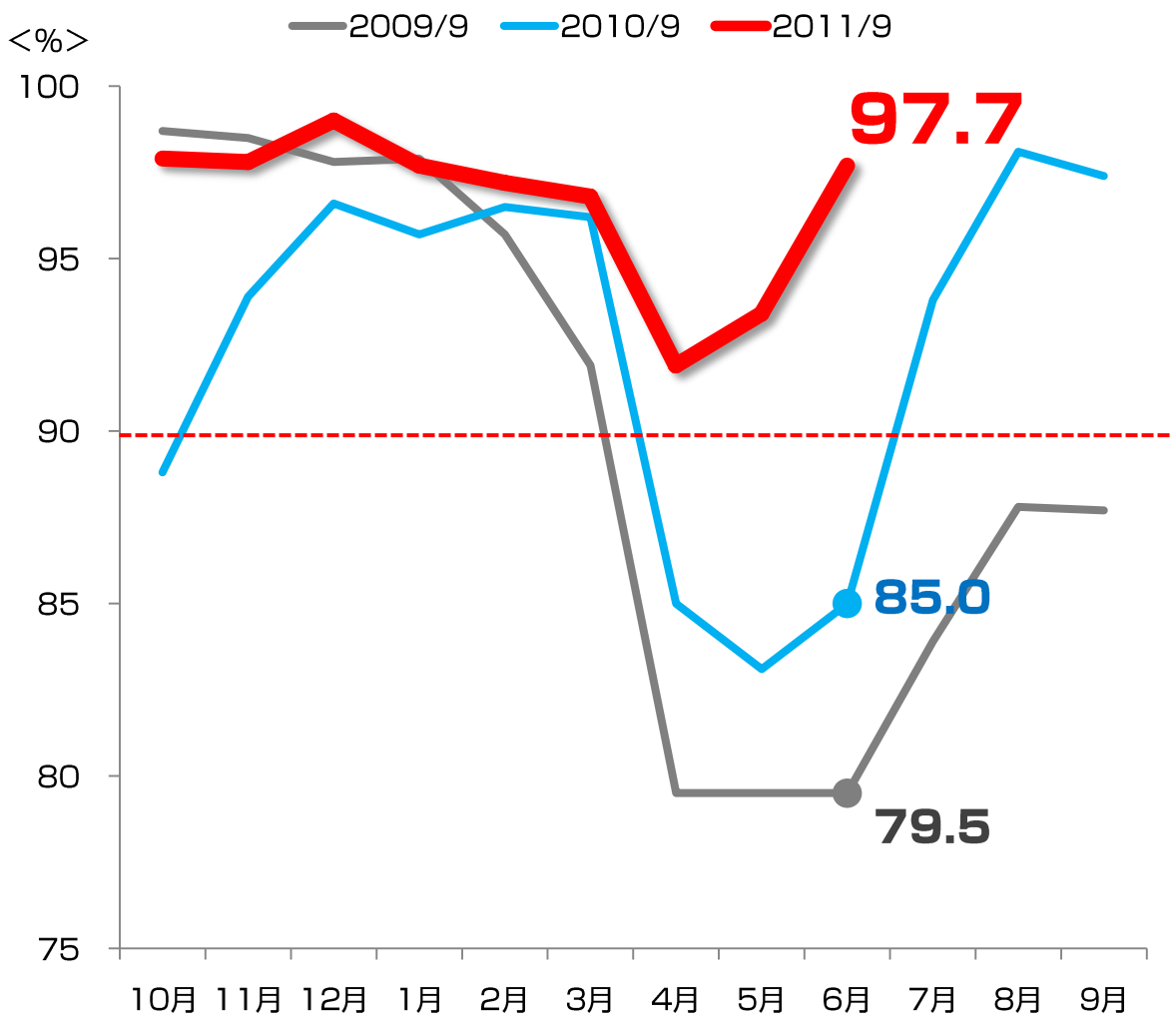


出典：経済産業省『業種アウトルック』

建設業界の老齢化は深刻
対して夢真HDは
若手に特化

＜要因＞
1．建設業界の先行き不透明感からの新卒採用見送り
2．IT産業などの新たな人気業種の台頭
3．技術者の育成環境の不足

＜ご参考①＞稼働率推移



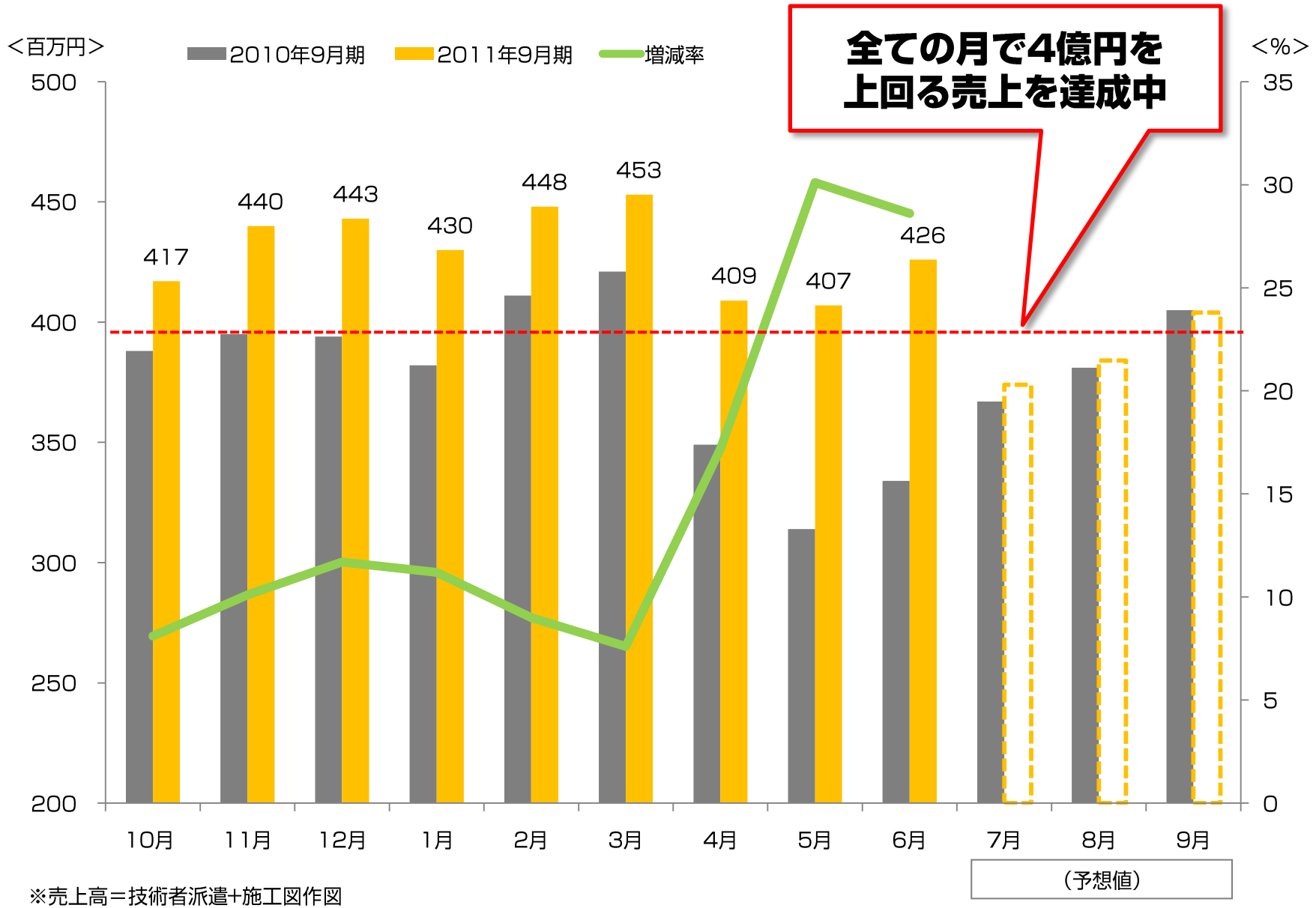
平均96.6%を達成
技術者の増員が急務

2011年9月期第3四半期までの稼働率は建設現場が減少する4月～6月も90%以上の稼働率を維持。
過去2年間を見ても突出した水準。

＜要因＞
1．建設現場の単純な増加
2．ゼネコン社員の東北出向等による首都圏の技術者空洞化
3．積極的な営業活動による継続契約
4．建設業界全体のコスト意識の改善

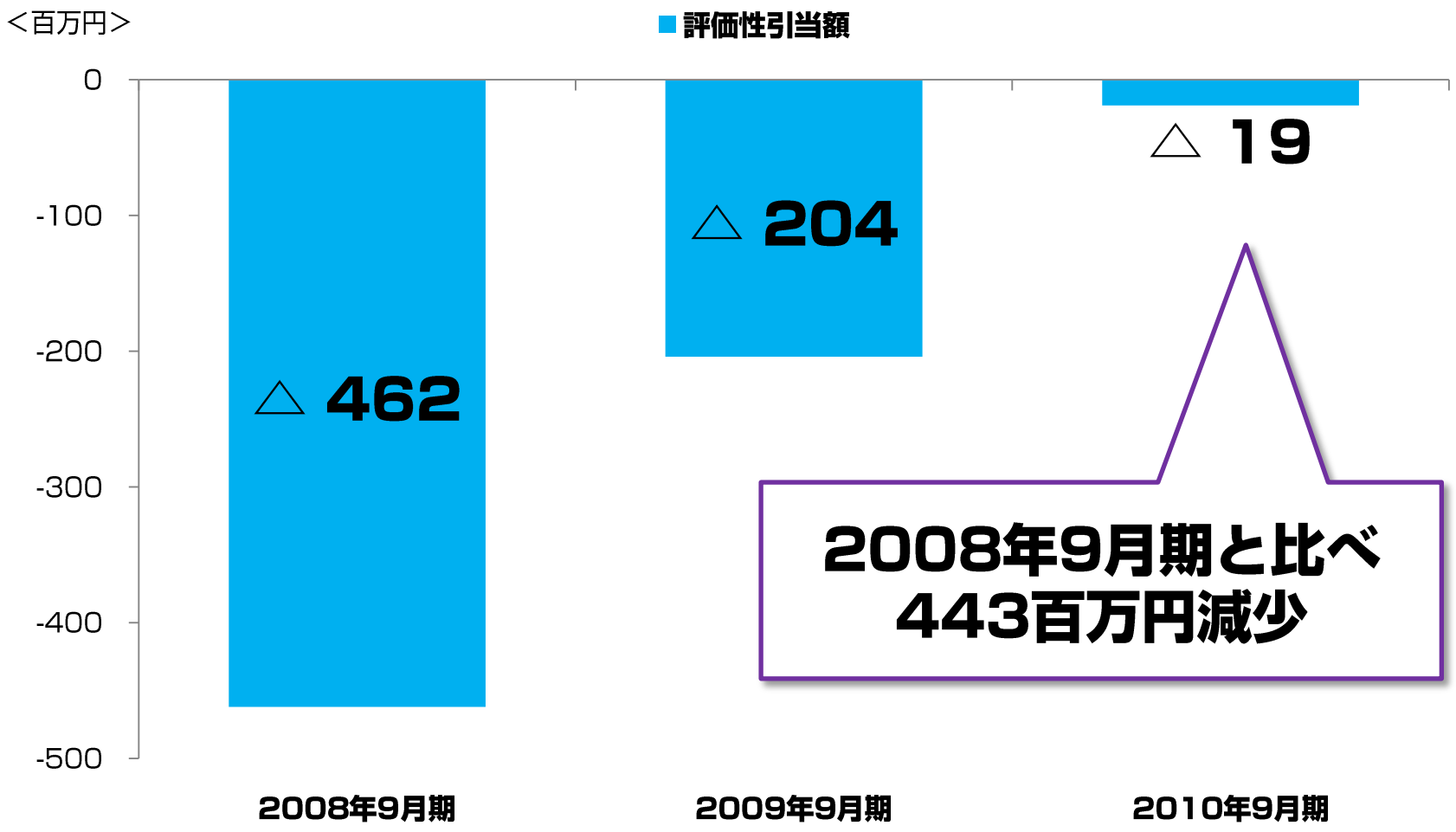
※稼働率＝稼働人数÷稼働可能人数（在籍人数－産休・休職）×100

＜ご参考②＞月次売上高推移



※売上高＝技術者派遣+施工図作図

＜ご参考③＞評価性引当額推移



免責事項

本資料は、資料作成者が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成しておりますが、当社および資料作成者はこれらの情報が正確であるとの保証はいたしかねます。情報が不完全または要約されている場合もあります。本資料に記載する価格・数値等は、過去の実績値、概算値あるいは将来の予測値であり、実際とは異なる場合もあります。

本資料は将来の結果をお約束するものではございませんし、資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、当社および資料作成者が責任を負うものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

＜お問い合わせ＞
〒112-0012
東京都文京区大塚3-11-6　大塚三丁目ビル
株式会社夢真ホールディングス　IR室
TEL：03-5981-0672　FAX：03-5981-0711
E-mail：ir@yumeshin.co.jp